

# CASBEE<sup>®</sup>新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版  
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

## 1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	株式会社 ホンマ製作所第二工場 南区 北田中字宮下497-27 工業地域 工場 2013年1月 予定 4,149.75 m <sup>2</sup> 1,698.91 m <sup>2</sup> 2,665.40 m <sup>2</sup> 地上2F S造 実施設計段階評価 2012/913	
---	---	--

## 2. CASBEE新潟の評価結果

	<b>B+</b>	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{50}{34} = 1.4$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★		

## 3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	2.5		バリアフリー	Q2.1.1.3 1.0
			維持管理	Q2.1.3 4.5
			更新性	Q2.3.3 2.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	2.8		耐震・免震	Q2.2.1 3.0
			信頼性	Q2.2.4 2.6
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1 3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.3		建物の熱負荷抑制	LR1.1 3.0
			自然エネルギー利用	LR1.2 3.5
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	3.3		節水	LR2.1.1 3.0
			リサイクル材の使用	LR2.2.4 3.0
			再利用可能性向上	LR2.2.6 4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	3.5		生物環境の保全・創出	Q3.1 3.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2 4.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	3.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2 3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1 3.0

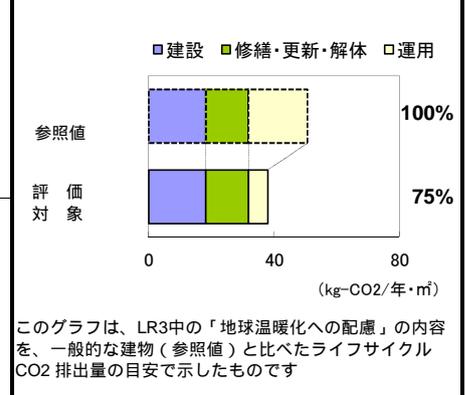
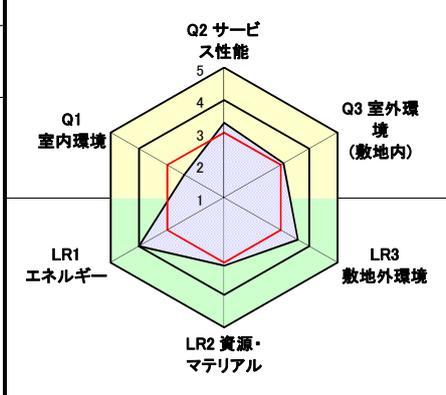
## 4. 新潟市の重点項目の配慮事項

長寿命化の取組みについては、内外装材を維持管理が容易に行える材料を選定した。自然エネルギーの取組みは、積極的に採光利用を図るためハイサイドライトを設置した。資源循環の取組みは、構造躯体と仕上材が容易に分別可能な計画とした。水と緑を生かす取組みは、計画建築物をコンパクトな形状とすると共に、敷地内の空地を可能な限り確保することで、通風を確保した。また、積極的に敷地内を緑化することで、地表面温度の上昇を抑制するように努めた。

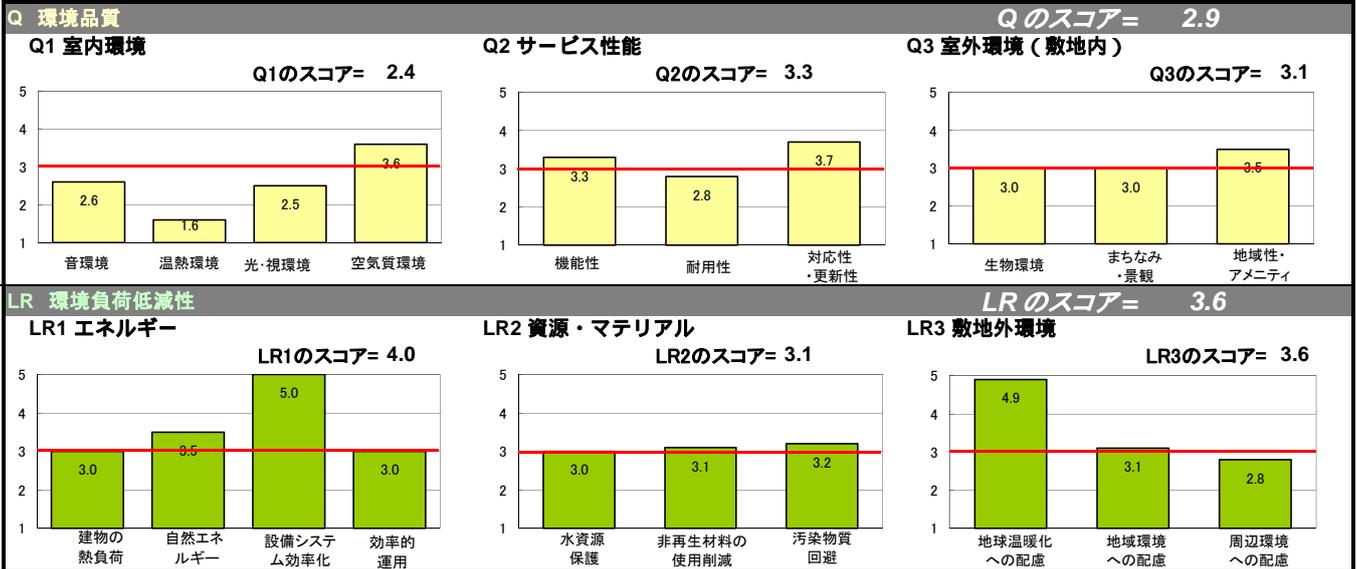
# CASBEE<sup>®</sup>新潟 | 評価結果内訳 |

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル, CASBEE-新築(簡易版)2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

## 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート) 2-2 大項目の評価(レーダーチャート) 2-3 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)



## 2-4 中項目の評価(バーチャート)



## 2-5 設計上の配慮事項

<b>総合</b> 計画建築物は、周囲を田園に囲まれた工業地の一角に設計した工場である。広大な敷地の中で、「街並み及び周辺環境との調和」を総合的なコンセプトとした。これを工場に要求される機能に付加し、快適な作業環境となるように目指した。		<b>その他</b> 将来、屋根に太陽光パネルを設置を見込んだ構造計画としている。
<b>Q1 室内環境</b> 使用建材にはF を全面的に使用し、シックハウス対策を徹底した。また各諸室は、敷地南側に広がる広大な田園風景、及び自然要素(自然採光・風等)が取込めるように開口部を設定した。	<b>Q2 サービス性能</b> 各諸室は、快適な作業空間となるように天井高を2.7m確保した。内外装材は、維持管理が容易に行える材料を選定し、建築物の長寿命化に配慮した。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 計画建築物をコンパクトな形状とすると共に、敷地内の空地を可能な限り確保することで、通風を確保した。また、積極的に敷地内を緑化することで、地表面温度の上昇を抑制するように努めた。
<b>LR1 エネルギー</b> 有効に昼光利用するためハイサイドライトを設置すると共に、照明設備を全てLED照明器具とすることで照明エネルギーの削減を図った。また一次エネルギーの消費量を抑制するため、設備の高効率化を図った。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 汚染物質含有材料の使用を回避するため、ハロン消火剤を一切使用しない計画とした。また、部材の再利用可能性向上への取組として、構造躯体と仕上材が容易に分別可能な計画とした。	<b>LR3 敷地外環境</b> 地域環境の配慮を目指し、燃焼機器を使用しない計画とし大気汚染防止に努めた。また、適切な量及び広さの駐車スペースの確保・導入路の位置等の検討を行い、周辺道路への交通負荷抑制に配慮した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される